後志ボランティア
連協だより

ぽてと つうしん

第57号
令和4年3月1日

いつまで コロナ禍の活動

後志地区ボランティア連絡協議会
会 長 **小野 幸子**

令和３年度の総会は、５月に対面形式で開催することが出来ましたが、皆さんと一緒に楽しく研修することができず、とても残念です。

ボランティアはとどまっていては、何もできず、少しずつ前に向かって活動していることが大切だと思っています。

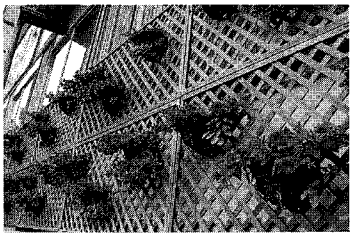
後志ボランティア連絡協議会として「ぽてと通信」を発行して、第57回になります。今年度は秋の研修会を開催することができませんでしたが、各町村のボランティア活動をご紹介する良い機会でもあります。そこで５町村の方々の活動を皆さんにご紹介いたします。

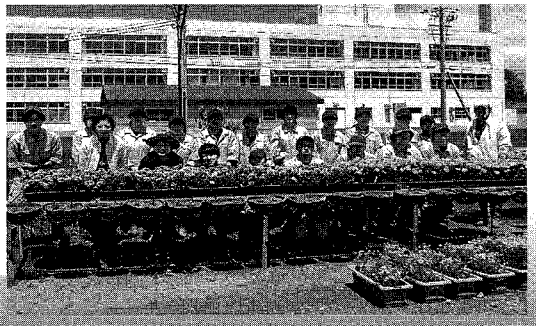
倶知安町の尻別川リバーパーク駐車場に羊蹄とニセコ連邦を望むビューポイントパーキングの看板の除幕式を６月29日に行い、シーニックバイウェイ北海道支笏洞爺ニセコルートの新たなビューポイントとして、登録していただきました。

ここは目の前に羊蹄山がくっきりとそびえ立ち向かって右手にニセコ連邦の山並みが連なり、とても良い景色です。このコロナ禍の中、心も体もリフレッシュできますので、皆さん一度訪れて見てください。

私からは、ＮＰＯ法人ＷＡＯの活動を写真とともにお知らせいたします。毎年、５月から11月まで、エキノコックスの駆除のために、キタキツネの、駆虫薬を混ぜた餌を月１回散布する活動をしています。

また、倶知安町のまちづくり活動として、いろいろな場所に花を植え美化活動をしています。倶知安農高の生徒さんが授業の一環として、ＷＡＯの会員と共に花の苗を植え、町民や国道を通る方々に見ていただけるように、後志総合振興局森林室の庁舎の壁に450本の花を飾りました。この活動も10年を迎え、今年は「世界の後志を目指して」と書いたＴシャツをＷＡＯから農高の２，３年生全員にサプライズプレゼントをいたしました。





給食サービス事業について

倶知安町社会福祉協議会
総務係長　森　　敏弘

倶知安町社会福祉協議会で行っている給食サービス事業は、24名の配食ボランティアの協力を得て、毎週火曜と金曜日の週２回行っています。事業を開始した平成３年６月当時は今ほど情報通信網が整備（すすんでおらず）されておらず、独居高齢者や障がいをもった方の安否の確認には〝人の目〟が必要でした。そこでボランティアがお弁当の配達を行い、〝人の目〟で見て安否の確認を行う給食サービス事業がはじまりました。それから30年が経ち世の中はインターネットや携帯電話の普及により、誰にも会うことなく、話すことなく買い物が出来き、遠く離れていてもつながることが出来きるようになり、一見便利な世の中になっているようですが、配食に訪れたボランティアとの会話がこの一週間で初めて、という方もおり、孤立感の解消や異変に気が付くことができるボランティアの〝人の手〟による訪問があらためて大切であることを実感しています。ちょっとした声掛けや何気ない世間話からいち早く異変に気付くことができるのは、やはり人と人とのかかわりであり、それが地域住民同士の助け合い、支え合いにつながっていくことがいつの時代も変わらず求められているのではないでしょうか。

（令和２年度配食数3,220食）

ぜひ、ろうあ者の方とコミュニケーションを

古平手話会　**真貝　泰子**

私は古平手話会でろうあ者から手話を習いながら、手話登録員として病院通訳や停電などの災害時、コロナの予防接種などで生活支援をしています。古平手話会は、週１回の例会と月１回の手話通訳士を招いての講習会で学習をしています。また、後志ろうあ協会の行事に参加して、ろうあ者の皆さんと交流の機会を持っています。

コロナ禍での知事の記者会見やオリンピック・パラリンピック閉会式での手話通訳などで、最近は手話を目にする機会が増え、手話に関心を持つ人も増えたように思います。

一方、コロナ禍の中、スマホの動画などで、ろうあ者同士のコミュニケーションはあるものの、行事はことごとく中止になり、健聴者（聞こえる人）との会話はグッと減ってきているのが気になっています。

ろうあ者たちとコミュニケーションをとる方法は手話だけでなく、筆談（紙に文字を書く）、空書（そらがき）で書く、ジェスチャー等でも通じますので、是非、話しかけて見てください。とてもフレンドリーに対応してくださいますよ。

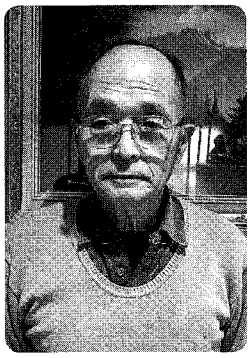
有償ボランティア「わっか」立ち上げ

赤井川村社会福祉協議会
生活支援コーディネーター　**平野　智一**

赤井川村は人口1,100人にも満たない小さな村。福祉サービスが充実している村ではなく、デイサービスが１つ、訪問介護事業所１つ、グループホームが１つある程度の村です。令和２年度生活支援体制整備事業協議体の中で、村の人たちの必要なニーズとそれに対応したものをグループワークをしながら皆さんで考え、実現するためにどうしたらよいか、どういったものだと実現可能か話し合い進めました。その話し合いの中で有償ボランティアを立ち上げたらどうだろうかとなり、まず本当に必要なニーズ・担い手となる人たちを掘り起こし、立ち上げに動き出しました。そしてシステムを作るにあたり「更別村ＮＰＯどんぐり村サラリ」から活動の概要や大変さ等をお聞きし、また後志管内で実際に活動をされている岩内町社会福祉協議会を講師としてお招きし、「たすけ」の活動を実際に今後担い手になる住民さんと一緒に聞いたりして作り上げました。令和３年４月から有償ボランティア「わっか」として動き出しました。「わっか」という名称は住民から募集して決まりました。人と人が輪のように全体としても、ｖｇ個人と個人とも繋がれるようにという意味を込めてつけて頂きました。

ボランティア活動とは…

泊村　ボランティアセンター　**小川　晃**



私がボランティア活動に取り組む経緯は、泊村に移住した65歳から始まりました。冬季間の間、高齢者が悩まれる「除雪活動」から始まり、現在、13年間ボランティアとして除雪にご協力しております。除雪に対する考え方として、ご自身で除雪が困難な高齢者世帯を対象に生活道路を確保することを目的としており、除雪時は「車両駐車場の確保」、「屋根等の落雪」などに注意しながら除雪を実施しております。冬場は特に危険なことが多いため、緊急時に何かあった場合、怪我等の危険性を抱えながら暮らす住民の方の不安な思いが払拭できるよう心掛けて活動しております。

また、ボランティア活動とは別に、泊村単位老人クラブ会長として「泊慶寿会（会員数47名）」の活動にも尽力しております。コーヒー作り、レコード・映画鑑賞等の私の趣味活動が泊慶寿会のモチーフとなり、毎週第２・４金曜日にカフェを開催しております。来客者も平均28名以上の方々が集まり、私の活動が地域の方々への楽しみとなっていることが大変嬉しく思います。昨年度は、顕著な活動を継続している全国の単位老人クラブに対し全国老人クラブ連合会から「優良老人クラブ表彰」を受賞致しました。機会があればぜひ、「カフェとまり」にお立ち寄りください。

最後になりますが、ボランティア活動は「**人と人とのつながりを作り上げ、人の温かさを感じる活動**」だと思っております。私自身、これからも泊村に住まわれる住民や地域のためにご協力出来ることに力を発揮し、活動に取り組んでいきたいと思います。

私にとってのボランティア

京極町ボランティアセンター運営委員会
委員長　**古屋　清子**

私のボランティアとの出会いは、週に一回デイサービスで麻雀のメンバーが足りないので職員に誘われたところから始まりました。

「麻雀くらいならできるか」と思って始めたボランティアでしたが、やっていくうちに待っていてくれる仲間がいる事に気が付き、そこでボランティアは「楽しい」ものなのだと初めて知りました。

今では福祉施設でのボランティアや介護予防の体操、市民後見人活動など色々な分野での活動を町内でおこない、そういった活動を通して仲間も増えてきました。

これからもさらに仲間が増えていけばいいなと考えていますが、なかなか今の時点で興味がない方に関心を持ってもらう機会を作る事が難しいです。

今後は自分も楽しみながらさらに活動を充実させていきたいと思います。また、ボランティアは「楽しい」ということをもっと多くの人に知ってもらえるような広報活動にも力を入れていきたいと考えています。

後志管内の皆様ともボランティアを通して仲間になっていきたいです。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

ぽてとつうしん　第57号　2022年3月
発行／後志地区ボランティア連絡協議会　〒044-8588　虻田郡倶知安町北1条東2丁目　後志合同庁舎
北海道社会福祉協議会 後志地区事務所内
TEL. 0136-21-2945